

心を込めた紙製容器で未来を創る

東京発見伝

北赤羽駅の周辺はマンションが立ち並ぶ住宅街だ。駅から歩いて五分のところに興亜紙業株式会社がある。創業八二年になる都内では唯一の段ボール製造メーカーだ。印刷業界は低迷し用紙の需要が落ち込む中、段ボールは近年ネット通販などの影響もあり微量だが年々増え続けている業界だ。特にエコという観点から九〇%を



社長と木村氏

超えるリサイクル率という循環システムが機能している段ボールは、食品関連をはじめ包装容器として重宝される。取材をしているとグオーンという音が聞こえてくる。原紙を貼り合わせて段ボールを作成している音だ。同社は、段ボールシートを作る過程から、印刷、パッキング加工まで一貫生産の機械設備を持っている。工場長の木村さんから、都内で小規模だが多品種、小ロットをこなす会社は同社しかない。段ボールは嵩



こうあ
興亜紙業株式会社

取締役

木村多門氏

事業内容
段ボールシート及び
ケース製造販売



(北支部)

が大きいので物流コストがどうしても高くなる。それゆえ都内という立地を活かした営業展開をしている。商圏五〇キロ圏内のメーカーをはじめ様々な業種の段ボールケースを受注している。近年では、新しい需要として冷凍おせち料理用外箱、災害時の段ボールベットなど、段ボール素材の軽くて、丈夫で自由に加工できる特長を活かした製品が生まれている。

同社はパッケージ制作にあり、あらゆる相談に乗っている。紙質(一般紙、強化紙、色付紙、保冷性、耐水性、耐油性のある特殊紙等)の素材選択から印刷仕様、強度や作業性を考慮した形状の提案を行う。災害対策用段ボールベッドについては、内閣府(経済産業省)、東京都及び多数の自治体の避難所に納入実績がある。

そのようなお話を伺って工場を見学させていただいた。最初に目についたのが一〇〇メートルもある段ボールシートを

生産する機械だ。あまりにも大きな機械に圧倒される。一分間に一〇〇



段ボール原紙

メートル以上の段ボールが流れていく様子は圧巻で何時間でも見ていたくなる。四色の印刷加工機械など、大概の段ボールケースを作成することができ。ISO14001、FSC、COC認証も取得していて環境への負担を最小限にすることにも力を注いでいる。段ボールベットを組み立ててもらい寝心地を体験した。五分もあれば組み立てられ、使用する環境などに配慮した設計は、現場でのニーズを活かしたものだと感じる製品だ。これからもニーズに合った製品が次々に生まれてくる予感がする。

玄関に「ご来場歓迎」の表示で熱烈歓迎いただき、社長の平岡さんにも説明いただいた。手厚いおもてなしに感謝。

(広報部 市川浩 鈴木啓文)